

ニューサークルだより

ふるさと兵庫 100 山/県下第 2 の標高

神宿る山「三室山（1358.0M）へ」

6 月 23 日・案内人/布引支部 吉野 宏

4 月の末から 6 月にかけて県内外の山へ立て続けに登ることとなった。シャクナゲやイワウチワ・イワカガミが美しく咲く比良山地の堂満岳（1057.0M）へ。

花開くのが 3～4 日間だけというヤマシャクヤク咲く鈴鹿山系最北の霊仙山（1084.0M）

へ。



続いて兵庫・岡山・鳥取に跨る氷ノ山後山那岐山国定公園内の大海里山

（1206.6M）、駒の尾山（1280.5M）、鍋ヶ谷山（1253.0M）、船木山（1334.0M）までの連山へ。

そして今回の三室山（1358.0M）と

1,000 メートル級の山 7 山に登らせて？頂くことが出来た。これらの山への日帰り登山は、公共交通機関利用ではとてもではないが無理であり、声掛けして下さった一王山支部 HNCM の中空さんの車両提供が無ければ実現しないことであった。改め感謝する次第です。



三室高原野外活動センター入口跡の休憩小屋

播州の奥座敷、ちくさ・三室両高原をぐるりと取り囲むように 1000 メートル級の山々が連なっているが、その中で北東に位置し、

ひととき高く三角錐の頭を出しているのが三室山である。この山の思い出は、平成 16 年（2004 年）の 7 月、当時は未だ健在であった高原ロッジ 8 棟の全てを貸切り、ヒヨコの例会としてバス 2 台・87 名の大パーティーで一泊二日し、三室山と後山の 2 山に登ったことだ。この時企画した大バーベキューパーティーで盛り上がったことは、当時の例会委員長としての大きな仕事であったと記憶している。



千種川支流・河内川源流/三室山登山口の標柱有り

そして、あれから 17 年余り経過したが、その間に山案内等で 2～3 回は訪れている。旧野外活動センター入口跡に車を止め、林道を直進。登山口から少し入って沢筋の左岸側を登って行くと大石が有り、右岸側の尾根へと移って、後は植林帯をジグザグにひたすら登って行く・・・。



滑らぬ様に！～はまらぬ様に～(^^♪



写真上奥の黒い物体は？・・・クマ～！！？



この～葉 この花 何の花？～(^^♪

どこの山でもそうであるが、植林帯のシグザグ道は獣もよく通る為、途中で登山道を外れてしまいそうな場所がよくある。いくら一本道とは言え、しっかりと道を見ておかないと、植林帯は同じ風景なので迷いやすく、修正するのに大変だ。コンパス（磁石）は必携で、且つ地形図と併せ日頃から地図読みには馴れておこう。



大岩庭園？ を通過

名づけた方など～知りたくないわ～(^^♪



1100メートル当たりから自然林に代わり、木々の合間から、ちぐさ高原から東へ延びる連山が目に入って来るようになる。ここまで来ると天然のクーラーで、身も心も一層リフレッシュな気分になる。ブナやミズナラ、カエデなどの自然林の中に大小さまざまな岩が出てくると頂上も近い。この辺りでは夏本番を知らずかのように、コマドリコマドリの良く響くさえずりを聞くことが出来るのだが、天気が冴えないので歌わないのだろうか？

チュールルルル(^^♪



吾輩は体長僅かに 15 センチ程のかわいい小鳥なの

だ！

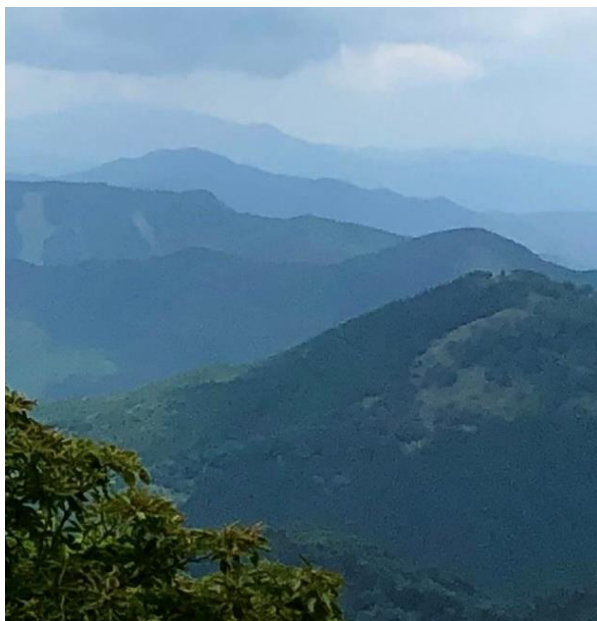
最後に鎖のある大岩を正面から乗っ越して
11時20分、スタートして2時間10分で
山頂に立った。



ばんざ〜い！！山頂です！（^^♪感激は 下って
来ない だから登って行くのだよ！（^^♪



三室山山頂の二等三角点



360度見渡す山々は、幻想的な墨絵の世界！



氷ノ山の稜線がかすかに望めた！

梅雨真っ只中の平日である。余程の山好きで
なければ、宍粟市最奥のこんな山まで来ない
だろうね！と独占状態の山頂で思う案内人。
本来ならこの山頂で、展望と昼食を楽しむの
だが、雨雲や周囲の雲の動きから判断して、
すぐ下山にかかった・・・

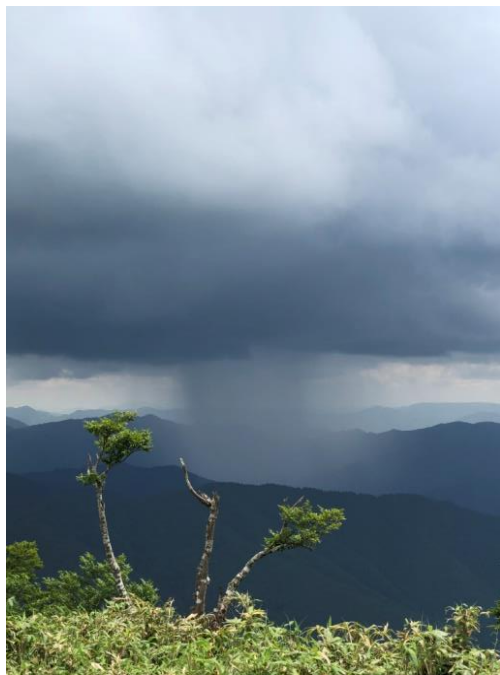


早い事撮ってんか！！雷の臭いや！！

岩場・鎖場をクリアし、植林帯の足場の
良い場所まで来ると雷様がこれ以上待てませ
ん！とばかりに、スコールを浴びせて下さい
ました・・・。



宍粟のカミナリさん！



筒状のスコール・・・お見事！！

植林限界からはスコールが激しく、傘をさして只ひたすらに下る。衣服も靴もぐしゃぐしゃで、「いっそのこと上半身裸で歩いたら、シャワーの代わりになるで！！」と半分本気で思っていると雨雲は通り過ぎて日差しが出てきた。結局スタート地点の野外センター入口まで戻り、休憩小屋で遅い昼食に有りついた。

.....

下山後に見学すればよいと思っていた**三室の滝（爛鍋滝/かなべたき）**はここからすぐ下。千古の昔から絶えることなく、豊かな水量で美しい姿を見せてくれるこの滝は、幅 12.5 m、落差 15.1mとそう高くはないが、岩肌を三筋に分かれて流れ落ち、一度滝壺へ落ちた水が2m以上跳ね上がるという非常に珍しい滝で、見る人に爽快感を与えてくれる。



三室の滝（爛鍋滝/かなべたき）

.....

追記（穴栗の名物・名湯をご紹介します）

〇たまちゃん豆腐

千種川の天然水と国産大豆のみを使用した手づくり豆腐です。普通の豆腐作りは、重石を乗せ固めるのですが、ここの名物「**寄せ豆腐**」は、それをせずに作るので水気をいっぱいに含んでおり食べやすく、冷や奴にもってこいです！**手揚げの油揚げ**も評判ですぞ！



たまちゃん豆腐



お店の名は「**平瀬豆腐店**」。
場所は、ふるさと兵庫 100 山「**植松山**」登山口から 50M 程入った所です。

〇天然ラドン温泉「**しそう・よい温泉**」

中国自動車道山崎 IC から R29 号を、北へ 7 km 程北上し、*与位の洞門（よいのどうもん）を抜けた西側の自然林に囲まれた山裾に有ります。四季折々に清らかな空気と太陽がふりそそぐ自然にあふれた温泉です。

登山の帰り、汗を流すのにはもってこい！のシンプルな温泉です。



※与位の洞門（よいのどうもん）について

宍粟市山崎町与位にある洞門。揖保川に面する右岸にあり、1903 年（明治 36 年）に最初に掘られた。付近は「下岬の奇岩」（しもほきのきがん）と呼ばれ、揖保川に面する絶壁で、古来、宍粟の奥地へと向う際の交通の難所として、また田井の橋渡し付近とともに奇勝としても知られていた。当時は、岩端に栈橋をかけて通行していたが、洪水時には落ちた。このため、1903 年（明治 36 年）頃に村人らによって 2 年がかりで隧道が掘られた。1926 年（昭和元年）には荷車が通れるほどに拡張され、さらに 1968 年（昭和 43 年）には大型自動車が行き来可能なまで拡張工事が施された。（ネット掲載文より）

.....

最後に、往路、復路とも運転手役に徹してくれた中空さんに、改め感謝を申し上げます。

（湯上りの気持ち良さに男 2 人は借りてきた猫よろしく、うたた寝をしていたのは言うまでもありません！）



END